




検査部ホームページをリニューアルしました

検査部ホームページ(院内版)をリニューアルしました。今回は、「各検査室の紹介」を新しくしています。特に、よく検索されている輸血検査室、細菌検査室、生化学検査室の内容をパワーアップし、血液製剤の種類、細菌検査項目の提出可能時間や採取容器などを追加しています。検査部HPの見方については下記をご参照ください。

検査に関する素朴な疑問も解決できるかもしれません！ぜひ一度覗いてみてください！

< 検査部ホームページの見方 >

HIS 端末で IE または  をクリックし、院内HP(病院情報システム ポータルサイト)を開く。

「中央診療部等」(画面左上)より「検査部」の項目をクリックすると検査部ホームページが表示されます。

九州大学病院検査部はISO15189を取得しています。

九州大学病院検査部・臨床検査医学分野
九州大学病院 検査部 臨床検査医学分野

トップページ TOP PAGE お知らせ OSHIRASE **各検査室の紹介 KENSAITSU** 検査項目について KENSA KOUUMOKU 臨床検査の手引き TERIKI よくある質問 Q&A 臨床検査セミナー RIKKEN 紀要誌 RINKOJI

九州大学病院 検査部および臨床検査医学分野のホームページです

康 東 東天部長の挨拶 (かん どんちやん)

堀田 多恵子技師長の挨拶 (ほった たえこ)

検査項目一覧 Kensa Koumoku

九州大学病院検査部はISO15189認定施設です。 >> [ISOとは?](#)

TOPICS

- 九大病院 検査部ホームページ: このサイトです。九州大学病院の職員向けの内容になっています。
- 臨床検査医学分野ホームページ: 研究者、医学部の学生向けの内容になっています。
- 検査部質量分析室については [こちら](#)
- 基準範囲と臨床判断値については [こちら](#)

《今号の紙面》

- 検査部ホームページをリニューアルしました……p.1-2
- 献血ルームと血液センターへ見学に行きました……p.3-5
- 鉄分検査室……p.6-10
- 新人紹介……p.11-12
- 編集後記……p.12



パワーアップした内容は以下の通りです！

<輸血検査室>

■検査について

- ・血液型検査
- ・不規則抗体検査
- ・交差適合試験(クロスマッチ)
- ・検査に影響があるときってどんなとき？

■血液製剤について

- ・赤血球
- ・新鮮凍結血漿(FFP)
- ・血小板
- ・アルブミン

製剤の種類や働き、
保存方法などが
載っています！

■自己血について

■認定輸血検査技師について

■輸血拒否について



・赤血球

赤血球は体の隅々まで酸素を運びます。つまり、赤血球がないと体が酸欠状態になってしまふということですね！
そのため、出血や貧血等で赤血球が足りない時に赤血球製剤を輸血します。
期間は**輸血後21日間**で、使用するまで輸血検査室の冷蔵庫で保管しています。下の写真に写っているのが赤血球製剤です。血液製剤ごとに色が分けられていて、ちゃんと判別することができます。



・交差適合試験(クロスマッチ)

赤血球製剤を輸血する前に、試験管の中で**患者さんの血液と輸血する赤血球**を混ぜて、**固まらないことを確認する試験**です。試験管の中で固まるということは、患者さんの体の中でも同じことが起こるということ！そうならたら大変ですよ。赤血球を輸血する前にクロスマッチの検査をすることで、安全な赤血球を選ぶことができます。



<細菌検査室>

■各検査項目の提出可能時間・採取容器

■よくある問い合わせ

- ・採取容器について
- ・ラベルについて
- ・検査時間について
- ・検査項目について

■検査紹介

- ・一般細菌
- ・抗酸菌(結核菌)



<よくある問い合わせ>

- ・採取容器について
- ・ラベルについて
- ・検査時間について
- ・検査項目について

<各検査項目の提出可能時間・採取容器>

項目	受付時間	リニアの使用
一般細菌	15:00まで * 15:00以降は翌日検査	平日の日勤帯 (8:30~17:15)
抗酸菌	13:00まで * 13:00以降は翌日検査	
血液培養	24時間	

<生化学検査室>

■結果コメントについて

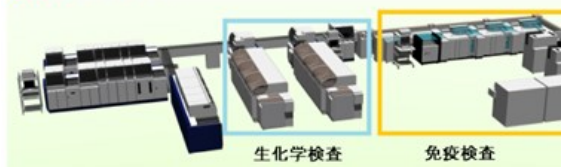
■検査結果が出るまでの所要時間

■溶血の影響について

■追加検査をする際に注意を要する項目

■検査結果が出るまでの所要時間

検査室に検体が届いてから結果が出るまでの時間を集計したところ、**生化学検査**は**25分21秒**、ホルモン検査や腫瘍マーカー検査などの免疫検査では**平均37分32秒**た。実際は、検体を提出してから検査室に届くまでにさらに時間がかかることや、影響、再検査などがありますので目安として参照して下さい。実際に、提出された後の位で結果が出るかを知りたい場合は**化学検査室(5756)**または**免疫検査室(5754)**へお尋ねください。



献血ルームと血液センターへ見学に行きました

新米検査技師ぼち



私たち検査部は、多種多様な検査を行っています。血液検査や細菌検査、心電図の検査などがありますが、私は今年度から輸血検査室に配属になった新米検査技師です。

輸血検査室では毎日たくさんの患者さんたちのため、赤血球や血漿(FFP)、血小板といった血液製剤を取り寄せ、検査をしてから病棟などへ出しています。この血液製剤は皆さんが献血に行き分けてくださった血液からできたものです！けれどもまだまだ新米の私はどのように製剤ができていくのかわかりません。そこで2015年11月のとある寒い日、九大保健学科の学生さんたちを誘って総勢約30人で午前中は献血ルーム、午後は製剤をつくる九州ブロック赤十字血液センターへの見学ツアーに行ってきました。



献血ルーム おっしょい 受付

献血ルームは福岡県各地にあります。福岡市内周辺だと、天神イムズやキャナルシティ、博多駅のバスターミナルの上にもあります。朝10時、私たちは博多駅の献血ルーム「おっしょい」前に集合。最初に「おっしょい前に集合ね」と先輩に言われた時は、どこのことかと思いました…まだまだ修行不足(?)ですね。さすがに全員で一か所に押しかけるのは迷惑をかけるので、ここに集まったのは私と輸血検査室の先輩と同期のK君の検査部3人と、九大の学生さん3人。献血基準に引っかかって献血のできない私はデジカメ代わりにiPhone片手にK君の後に付いてまわって、献血の流れを追うことにしました！

献血に行くと、受付⇒問診法の記入⇒問診⇒採血⇒献血の順番に進みます。

まずは受付です。1度献血バスで献血をしたことがあるというK君。個人を識別するために腕に番号の書かれた紙を付けられます。

次は問診票の記入です。安全な輸血を行うために、献血していただく皆さんにはたくさんの質問に答えて頂きますが、今はタッチパネルで答えることができるのでとても簡単です。

ソファで一息ついていると、すぐにK君の名前が呼ばれます。お医者さんのいる部屋で問診と血圧測定です。朝ご飯を食べていないというK君。献血では血をたくさん抜くので、朝ご飯は食べておきましょう！

問診が終わると、看護師さんから採血されます。ここで血液検査を行い、血液型や赤血球の数などを確認しています。採血が終わった後、台の下から出てきたのは、なんとカロリーメイト！朝ご飯を食べていないK君にやさしい看護師さんからのプレゼントです。献血ルームにはいろんなものがあります。ドリンクバーもありますし、お菓子も置いてありました。あとはDVD！献血の種類によっては40分以上ベッドに横になる場合もあるので、その間の暇つぶしのために置いてあるらしいです。至れり尽くせりですね～。DVDを選んだK君、でも今日は15分くらいで終わるけどいいの？



採血

あとは献血の順番を待つばかり…カロリーメイトを食べながら献血までリラックスモードのK君ですが、次に呼ばれたのは、また問診の部屋でした。

がっかりして帰ってきたK君。検査で引っかかったらしいです。ちょっと風邪気味だったのかも…。でもレポートしている私もピンチです！ここまで追ってきて、一番重要な献血シーンを見ることができないなんて…



献血中

そんな私を救ってくれたのは、学生さんの1人でした。検査もクリアした彼に、献血の見学をさせてもらいました。ベッドに横になった彼は初めての献血とのこと。緊張しているようでした。広い部屋にベッドが並んでいて、開放感があります。看護師さんが的確に血管に針を入れ、献血スタート。今回は全血で400mL採ります。人によっては200mL採血だったり、成分献血(血小板や血漿の成分だけを集める)など、いろいろあります。血が固まらないように、血液を集めるバッグは常に揺れ続けていました。目の前にはテレビもあり、暇つぶし対策もバッチリです。献血を受けながら注意事項の書かれた紙を渡される学生さん。そして、献血して気分が悪くなるのを防止するために足の運動法である「LEG CROSS運動」を勧められていました。ここ最近始まったばかりの運動らしいです。20分たっただでしょうか、そうこうしている間に献血終了です。血液でパンパンになったこのバッグを、血液製剤として使用できる状態にする工場、ブロックセンターに運ぶことになります。

ということで午後から行ってきました！ 久留米にある、九州ブロック赤十字血液センターです。低い建物と高い建物が2つ並んでいますが、私たちは低いほうの建物へ入っていきます。

まずは血液製剤についてわかりやすい説明のDVDを見せられました。ブロックセンターの中は①献血ルームで集められた血液を製剤にする製剤室、②安全な輸血のため、献血者の健康のために血液検査を行う検査室、③感染症の検査をするNAT検査室の3種類があるそうです。ブロックセンターは私たちのような検査に関わる人だけでなく、誰でも見学することができます。よく見えるように、部屋の1面に大きなガラスがはめられており、広い部屋を覗くことができます。

「製剤室」ではちょうど献血ルームから集められた血液が届いたところでした。中でも見ごたえがあったのは、血液のバッグがたくさん吊り下げられたシーンでしょうか。白血球を取り除くフィルターに通していきます。自分の白血球は自分を守るために働きますが、他の人のことは異物と認識して攻撃してしまうそうです。輸血は他の人の血液を体の中に入れるので、自分の中に他の人の白血球が入ってしまうと大変です！ それを防ぐため、白血球を取り除くフィルターに通すのだとか。



献血で集められた製剤がここに運ばれて処理されます



フィルターを通して白血球を除去するために、バッグを吊り下げていきます



NATとは？

「検査室」では、九大病院の検査室にあるものと似た形の機械がたくさん並んでいました。中で働いているのは検査技師と薬剤師だそうで、検査技師と聞いてちょっとした仲間意識を感じていました。

「NAT検査」は輸血後に感染症を起こすことがないように、遺伝子検査をする部屋です。B型肝炎やC型肝炎の原因となる肝炎ウイルスにかかった人は検査室で抗体検査をすることで見つけることができますが、かかったばかりの初期の人はまだ抗体ができていないので抗体検査で見つけることができません。このように本当はウイルスに感染しているのに検査で見つけることのできない期間を「ウインドウ期」と呼んでいます。このウインドウ期は、輸血をする際に非常に厄介な期間です。この期間をなるべく短くするために始まったのがNAT検査です。これは血液中の肝炎ウイルスの遺伝子を増幅して検出する検査で、抗体検査よりもっと早くに検出することができます！輸血による感染症を防ぐために、日赤の方たちも努力を惜みず、日々働いてくれていることを実感しました。

こうしてできあがった製剤は、各県の血液センターへ配送されて行きます。

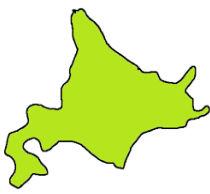
今回の見学ではまる1日かけて、献血するところから製剤を配送するところまで、たくさん見学させていただきました。安全な輸血の為に様々な検査を経て製造された血液製剤が、今日も輸血

検査室まで届きます。手術や出血などで毎日多くの患者さんが輸血をされています。いつも使用している血液製剤が病院まで無事届くのは、献血に来て下さる方たちのおかげなのだ、改めて感じました。けれども必要なときに血液センターの在庫が足りず、輸血するのを待ってもらうことも多いのが現状です。急いで輸血しなければならない患者さんでも、血液製剤がないことには輸血できません。「輸血」は献血に来て下さる皆さん1人1人のご協力によって支えられています。皆さん、献血にご協力をお願いします。

見学を終えて外に出た私は、ふと隣の建物に目を向けます。あれ？DVDに出ていた製剤の貯蔵庫って、この高い建物のことか！ あんな大きな建物全部に九州で使われる血液製剤がたくさん詰まっていると思うと、壮観の一言に尽きました。



九州ブロック血液センター外観 製剤貯蔵庫(右)



平成23年(2011)3月11日12時40分頃博多湾方から大博通り上空を博多駅へ向かって5機の飛行機が編隊でスモークを出して飛来した。翌日の本番に備えた予行であったが、翌日現れることは無かった。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



北海道新幹線 新函館北斗駅

今年3月26日の春のダイヤ改正で北海道新幹線新青森・新函館北斗間が開業し、ついに新幹線が北海道に到達した。鉄道史の画期である。鹿児島中央から新函館北斗まで新幹線が、九州から北海道まで繋がった。

本州と北海道を津軽海峡が、分けている。

日本海側を対馬暖流が北上し、その分枝である津軽暖流が津軽海峡を西から東へと流れ太平洋へ抜けている。

江戸期の物流の大動脈である北前船は、対馬暖流に対して東廻りが巡行し、西廻りが逆行する。北前船の北の終着点が松前である。最北の城下町が形成されていた。

松前藩の参勤交代は、津軽半島の三厩(みんまや)を経て行われていたが、津軽海峡の流れが速く風待ちをしていた。

安政元年(1854)の日米和親条約で下館と函館が開港し、物流の中心が松前から函館へ移るきっかけとなった。幕府は函館に奉行を設置するが、松前・三厩経路の交通では時間を要し、船の大型化で松前と三厩の港が手狭になってきたこともあり、元治元年(1864)幕府は函館渡航港として下北半島の佐井と青森を指定した。佐井は冬季の荒波に不向きであったため、やがて陸奥湾内の青森が函館への渡航港として定着していった。これが青函航路の始まりである。

明治6年(1873)開拓使は蒸気船・弘明丸を用い津軽海峡初の定期旅客船航路を開いた。その後民間に航路を譲渡し紆余曲折の末、明治44年(1908)国鉄の前身の帝国鉄道庁により鉄道連絡船である青函連絡船の運行が開始された。既に日本鉄道会社により東北本線の前身の奥州線が、明治24年(1891)9月1日に上野・青森間の全通を果たしている。

昭和63年(1988)3月13日に青函トンネルが開通し、海峡線で在来線列車が本州と北海道間を往来するようになり、青函連絡船は廃止された。それまで長らく青函連絡船の時代が続いていたのである。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

明治37年(1904)島崎藤村は夫婦で<破戒>の自費出版の金の工面に函館の義父を訪ねている。それを素材にした小説<津軽海峡>では、

函館へ向けて出帆するといふ二本ますとの駿河丸、その郵船会社の定期船が湾頭に碇泊して居る光景を眺めて茫然思ひ沈むで居たのです。(中略) 船の出たのは間もなくでした。勇ましい南部訛りの船頭の掛声と一緒に、四挺艦で漕ぎ離れました。

と、船(はしけ)で連絡船にのりついでいたことが描写されている。連絡船に乗船するのも大変なことであった。

明治43年(1910)函館駅に木造棧橋と接岸設備が完成し、函館では連絡船が接岸し直接乗下船ができるようになった。青森では大正13年(1924)に棧橋が完成した。青森の棧橋は現存し歴史を伝えてくれている。

洪民尋常小学校代用教員であった石川啄木は、函館で新生活を始めようと妹の光子と明治40年(1907)5月5日に連絡船・陸奥丸に乗船した。日記には、

海峡に進み入れば、波立ち騒ぎて先客多く酔ひつ。光子もいたく青ざめて幾度となく嘔吐を催しぬ。

と、海峡を渡るのは難関であった。この時の事を追憶して歌に詠んでいる。

船に酔ひてやさしくなれる

いもうどの眼見ゆ

津軽の海を思へば

<一握の砂>

北上川流域の内陸育ちの石川啄木にとって海のある生活は新鮮なものであったであろう。ようやく函館での新生活が落ち着いてきた8月25日の函館大火で勤務先の尋常小学校と函館日日新聞社が焼失し、9月13日に函館を離れた。わずかな期間であったが、132日間の函館の時代は文学的には濃密な時間となった。函館でのことを詠んだ歌は、故郷の洪民を詠んだ歌に次いで多く60首ほどある。

ところで津軽海峡は、世界七大海峡横断泳の一つに入っている。世界七大海峡全ての横断泳を初めて成し遂げたスティーヴン・レッドモンドは、津軽海峡は流れが速く最も苛酷であったという感想を述べている。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

青函連絡船に乗り初めて函館を訪れた際には、もちろん舳利用ではなく棧橋経由であった。陸奥湾内は揺れも少なく穏やかな航海で湾内の景色を暢気に堪能していたところ、津軽海峡に入ると揺れが大きくなり驚かされた。海峡を約4時間で横断し函館が近づくと、函館山が迫って見え印象的であった。

函館上陸時には思わず北島三郎の<函館の女(ひと)>の冒頭の一節がつい出てしまう。

♪ はるばるきたぜ 函館へ

さか巻く波を のりこえて

北島三郎は、高校時代旧国鉄松前線渡島知内(おしましりうち)駅から函館市内の高校まで2時間半の汽車通学をしていた。その車窓から津軽海峡の車窓風景が広がっていたはずである。昭和63年(1988)2月1日松前線は廃止され、今では乗ることはできない。

函館山は、標高334mで陸繋島である。もともと海底火山の噴火によってできた火山島で、北海道本島との間に砂州がのび陸続きになったものである。地図で見ると医療関係者には函館は、脳下垂体に見えるかもしれない。体部が函館山で、頸部が函館の中心街にあたる。ロープウェーで函館山に登り函館の市街地を眺めるとその地形がよく分かる。夜景は絶景。

昭和63年(1988)3月13日の青函連絡船の最後の日の最終便では<函館の女>の大合唱が函館で起こった。鉄道風景の変わる日にふさわしい出来事である。

同日、海峡線が開業した。1日のみ青函連絡船と海峡線の両方が運行した。

寝台特急<北斗星>が上野・札幌間に、急行<はまなす>が青森・札幌間に運行を開始し、青函連絡船での乗り継ぎなしの直通で本州・北海道間の往来が始まった。

海峡線経由では、青函トンネルを抜け、北海道に上陸してしばらく内陸部を走る。しばらくして海岸線沿に函館へ向かう。天気良ければ、津軽半島や下北半島も車窓から見える。やがて前方に函館山が現れる。半円形の函館湾沿いにぐるりと回っていくと函館山が次第に大きく見えてくる。青函連絡船とはまた異なった函館への行程であるが見飽きない車窓風景である。

平成22年(2010)12月4日東北新幹線八戸・新青森間が開業し、東京・新青森間が全通した。全線開業時に

は、新青森から北海道へ延びる高架橋は新青森から出るとすぐ途切れた状態であった。

青函トンネルは本州と北海道を繋ぐ大動脈をなし旅客列車以外に多数の貨物列車が行きかっている。北海道新幹線開業にあたって新幹線の運用と貨物列車の運用をどうするかが最大の問題となった。貨物列車は在来線の狭軌であり、新幹線は広軌である。最終的には青函トンネルは、3線軌条化された。狭軌の列車と広軌の列車の共用となった。新幹線の通常速度での運行ではすれ違いの際に風圧で貨物列車のコンテナのバランスを崩す危険性があるため、新幹線は最高速度を在来線特急並みの140km/hに押さえられた。

昨年の大晦日から今年の1月2日の早朝まで全面的に青函トンネルの列車の運行を止め、北海道新幹線開業のための地上設備の最終事前確認が実施された。

いよいよ3月26日の北海道新幹線開業を待つばかりとなった。北海道新幹線開業で青函トンネルを走る在来線の定期客車列車は全廃され、新幹線のみとなる。本州・北海道連絡の列車が相次いで廃止され最終列車の<北斗星>や<カシオペア>で一大狂想曲が演じられた。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



東京駅新幹線列車案内版

JRの列車指定券は、乗車1ヶ月前発売である。3月26日開業1ヶ月前の2月26日は金曜日で平日。午前の仕事の後昼休みに旅行業者に指定券取りを行ったところ何と東京から新函館北斗までの指定券が取れず。まさか全員東京からの乗客が終点まで乗るとは考えられず、仙台か盛岡での下車客がいるに違いないと、先行する東北新幹線列車で北海道新幹線列車に乗り継げるかを調べてもらおうと何とか仙台乗り継ぎで指定券をとる事ができた。

桜がほろび始めた北部九州から函館へ向かった。

東京駅JR東日本新幹線改札口の列車案内に新函館北斗行きの文字が登場。<はやぶさ101号>盛岡行きで仙台下車。<はやぶさ5号

>新函館北斗行きに乗り継ぎ。当日は好天で冠雪した岩手山も堪能。新青森から北海道新幹線となる。

青函トンネルには、竜飛海底駅、吉岡海底駅があったが、平成26年(2014)3月15日に廃止され、竜飛定点、吉岡定点となった。青函トンネル内は従来の在来線特急並みの速度に押さえられ海底トンネルの通過所要時間は変わらない。廃止された海底駅がどうなっているのかと車窓を注視すると、以前同様ホームの灯りが煌々と輝いていた。窓ガラスに顔を近づけ対向線路を見るとちゃんとレールが3本見えた。

北海道新幹線の車窓から見た最初の北海道の風景は、平地にまだ残雪が斑に残る風景であった。海峡線と異なり海は遠くにわずかに見え、函館山も遠くに望むばかりであった。海峡の車窓風景が殆ど見られず海峡を渡った実感が乏しかった。

北海道新幹線は、最終的に札幌を目指している。函館に寄ると路線が函館で<て>の字のスイッチバックとなり札幌までの速達性が失われる。そこで函館本線で函館から6つ目の渡島大野(おしまおおの)に新幹線駅を設け、駅名を新函館北斗と改称した。



北海道新幹線車窓から見る函館山



新函館北斗駅ホーム ポスター

新函館北斗に降り立つとホームには、北海道日本ハム・ファイターズの大谷翔平選手のポスターがお出迎え。北海道新幹線のイメージ・キャラクターとしていたところでお出迎えとなった。今年のファイターズのユニフォームも北海道新幹線開業日の3月26日から5月26日までの期間限定で〈はやぶさ〉色になった。

最後の5月26日は函館で対千葉ロッテ戦を戦い、同日次の対戦相手の東北楽天戦のため北海道日本ハムは、新函館北斗から仙台へ初めて北海道新幹線で移動した。函館から盛岡、仙台への所要時間が札幌より短くなり、交通地図が激変した。

新函館北斗の札幌方のホーム端へ行ってみると、駅を出るとすぐのところまでレールが途切れていた。新函館北斗・札幌間は現在建設工事中である。札幌に新幹線が到達するのはまだ先の話である。

新函館北斗駅周辺は田園風景が広がっている。駅東側は広大な農地である。札幌延伸の頃には駅前風景が一変しているに違いない。

新函館北斗から函館へは、快速〈函館ライナー〉が連絡している。西鉄天神大牟田線に当てはめるとおおよそ福岡(天神)・朝倉街道間ほどの距離があり15分で結んでいる。〈函館ライナー〉に乗り函館の一つ手前の五稜郭で下車し、五稜郭から分岐する道南いさりび鉄道に乗り込んだ。これは、新幹線の開業と引き換えにJRから分離された江差線が第三セクター鉄道として発足したものである。

北海道新幹線開業で道南の鉄道風景が大きく変わった。道南いさりび鉄道は、五稜郭・木古内間を走っているが、全列車が函館に乗り入れる形で運行されている。

道南いさりび鉄道の列車で函館に向かうと、到着時に大きなジェット機の爆音が響いていた。下車して乗車した列車の撮影をしようと振り返ると、いきなりその列車の後方からジェット機が編隊で現れ5条のスモークをはいて飛び去っていった。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

平成23年(2011)3月12日に九州新幹線が全線開業した。

日本の鉄道は当初列車の愛称は無く列車番号で呼ばれていた。道南いさりび鉄道函館行き列車 函館着ブルーインパルス
 鉄道省は、昭和4年(1929)に優等列車に愛称を初めてつけた。東京・下関間を走る特別急行列車の3・4列車に〈櫻〉の愛称をあたえた。戦後東京・長崎間の寝台特急に〈さくら〉と名付け由緒深い名前が継承された。平成17年(2005)3月1日に寝台列車〈さくら〉が、廃止されしばらく由緒深い名称が消えてしまっていた。九州新幹線全線開業に合わせ新大阪・鹿兒島中央間の山陽新幹線との相互乗り入れ列車として〈さくら〉の名称が復活した。

九州新幹線全線開業に合わせ開業を祝うブルーインパルスの展示飛行が博多駅上空で予定されていた。その展示の一つとして、直径2kmほどの5弁の桜の花が大空に描かれることになっていて、〈さくら〉の復活を空から祝福するはずであった。

開業前日予行飛行した松島基地所属のブルーインパルスは、九州新幹線全線開業の祝賀の飛行展示のため芦屋基地にやってきていた。芦屋基地に予行飛行から帰投した直後の14時46分に東日本大震災が発生した。このため九州新幹線全線開業で予定されていた各駅の開業記念の催しは全て中止となり祝賀の展示飛行も中止となった。



松島基地は、海に近く津波に襲われ、当時基地にあった飛行機全てを津波で失った。ブルーインパルスの9機のT-4練習機のうち6機は芦屋基地にあり、2機は修理で基地にせず、1機のみが松島基地にいて被災した。ブルーインパルスは、九州新幹線全線開業のため松島基地にせず、人員、機体ともほぼ温存できた。

仙台空港と並んで松島基地が大震災の空からの救援活動の活動拠点となるべきところであった。が、両者とも津波にのみ込まれ救援活動の初動に支障が出た。

行方不明者の捜索や瓦礫の撤去、医療支援、炊き出しなど震災のための救援活動で隊員の精神的疲労が極限の頃長淵剛が平成23年(2011)4月16日に慰問に訪れ<とんぼ>や<乾杯>など6曲を歌った基地が、この松島基地である。

ブルーインパルスの隊員たちも、交通機関が麻痺している中輸送機やバスを乗り継いで松島基地に戻り家族も被災していたが直ちに被災地の救援活動にあたった。2ヶ月後芦屋基地で訓練を再開し、松島基地の復旧がすむまで2年間戻れなかった。平成25年(2013)3月25日に芦屋基地でお別れの展示飛行が行われ、<さくら>も展示された。

函館駅のホームで編隊飛行を見て一瞬にしてその事が思い出されブルーインパルスだと分かった。急いで改札を抜け駅前に向かった。

函館駅前には北海道新幹線開業の催しの仮設舞台があり模擬店も多数出店していたが、駅前の大勢の人々は全員立ち止まって空を見上げていた。

東京オリンピックの時代を描いた山崎貴の<ALWAYS三丁目の夕日'64>では、東京オリンピックの開会式の時にブルーインパルスが五輪を描く挿話がある。三丁目の住人たちが開会式をTVで観ていたところ、ブルーインパルスの描いた五輪が外に出ると見えるというので、一斉に家々から飛び出し空を見上げる場面がある。まさにそれとそっくりの光景が函館駅前で開催していた。

残念ながら<さくら>の展示も行われたが、函館に到着した時には展示飛行の後半で目にすることはできなかった。北海道新幹線開業の日の函館の桜の蕾はまだ固かったが、後でその様子を伝える写真を見ると函館の空に見事な<さくら>が咲いていた。

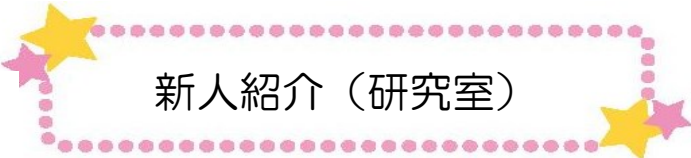
九州新幹線全線開業祝賀の展示飛行を博多で見られなかったが、北海道新幹線開業祝賀の展示飛行を予期せず函館で見る事となった。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今年の桜前線が津軽海峡を渡って函館に到達したのは、4月24日であった。



函館駅前 ブルーインパルス



新人紹介（研究室）



見明 明（左）

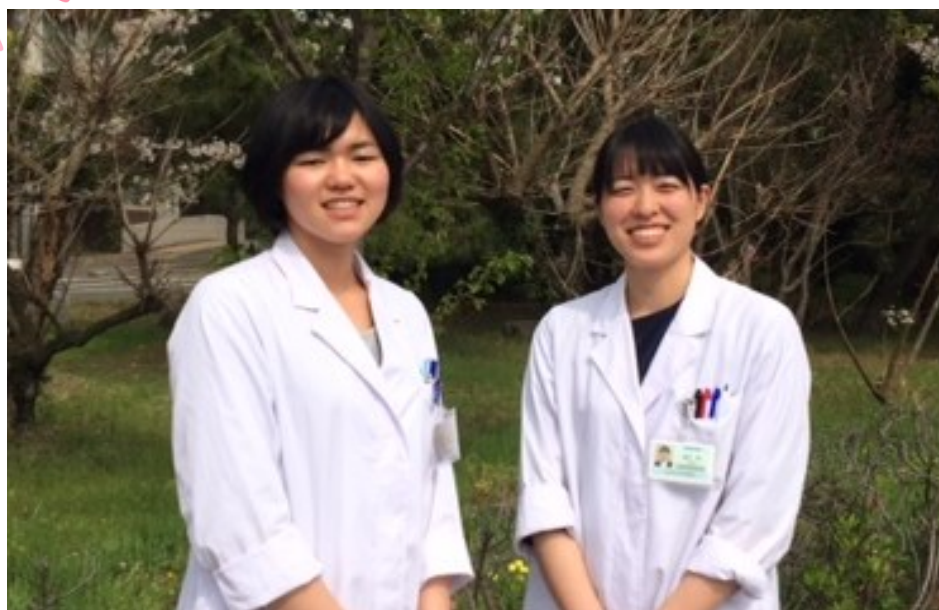
はじめまして。博士課程の新生です。検査部兼皮膚科所属という少し変わった形でお世話になることになりました。炎症性皮膚疾患を生化学的観点からアプローチする、というテーマで研究させていただきます。新人といっても今年で卒後9年目、皮膚科医になって7年目になりますので、若くはありませんが、研究は全くの素人ですからまた新たな気持ちで頑張っていこうと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。趣味はスポーツ、食事、そしてマイレージ集めです。

東 千尋（右）

4月より臨床検査医学分野にて研究をさせて頂いております。地元徳島の徳島大学を卒業後、今年度より九州大学へ大学院修士課程として入学しました。研究室では、管理栄養士という資格を生かし、ミトコンドリアと栄養との関係について深く学んでいきたいと考えております。また、初めての一人暮らしということもあり、研究や家事等慣れないことばかりですが、さまざまなことを吸収できるように日々精進して参りたいです。幼少期からクラシックバレエや、大学時代には阿波踊りを踊っていたため、とにかく踊ることが大好きです。バレエ鑑賞や宝塚観劇も好きなので、休みの日には博多座に宝塚観劇に行ったり、有名なバレエ団のバレエ鑑賞にも行けたらと思います。これからご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



新人紹介（検査室）



池本 文花（左）

4月より検査部生化学・免疫検査部門に配属となりました。社会人としても1年目で不安や緊張もありますが、まずは日常業務をしっかりと行えるように1日1日を頑張っていきたいと思っております。また、学生時代からバスケやバドミントンをしており、スポーツはするのはもちろん観戦するのも好きなので、機会があればぜひ誘ってください。まだまだ未熟でご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

梅村 明（右）

今年度より検査部で勤務させて頂いております。検査技師としての経験も無く知識もまだまだ浅い私ですが、1日でも早く検査部に貢献できるよう日々努力したいと思います。趣味はスポーツ観戦で、錦織圭・松岡修造・ホークスのファンです。これからよろしくお願いいたします。

編集後記

梅雨になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。検査部にも新人がはいるり活気にあふれています。日赤での具体的な業務が垣間見られ改めて関心します。18年後の検査の世界を見据え、今後もより良い検査結果を発信するよう日々精進していく所存です。

内海健